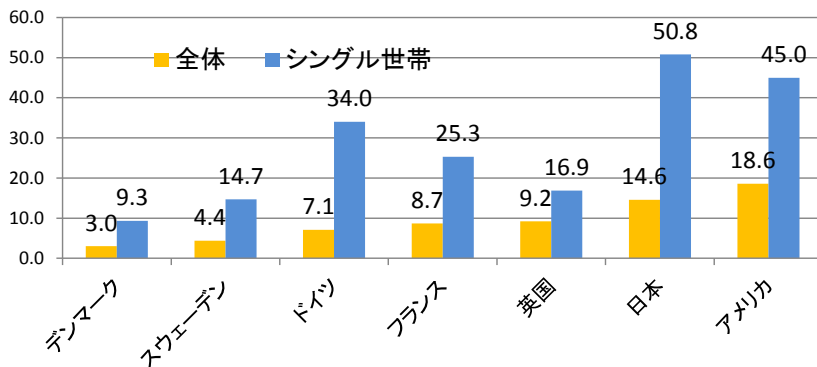


リアル ジャパン ～現実を直視し、何を成すべきか考えよう～

このコラムで、何回か、少子化問題、格差問題、日本の競争力等は取り上げてきました。

国民一人当たりの所得、貧困率、ジニ係数、非正規雇用者比率（以下の図表参照）、年収200万円以下のワーキングプア人口は約1069万人、国際競争力年鑑（WCY）によれば2015年の日本のランクは27位、このようなデータを集めて改めて見てみると、日本は優秀な国でも、選ばれた国でも無い、フツーに問題の多い国の一つになっています。

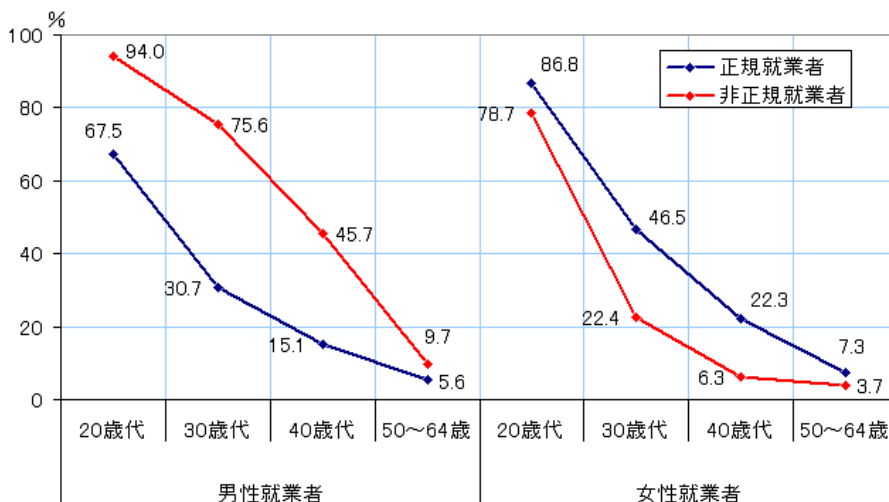
図表1. 子供のいる世代の貧困率(2010年)



出典：OECD Family Database

図表2. 正規・非正規別の未婚率

正規・非正規別の未婚率(2010年)



(注)2010年7月に行われた20～64歳対象の調査(回収7,973人、集計7,413人)による。

正規就業者は一般社員又は正社員など、非正規就業者はパート、アルバイト、派遣・嘱託社員など。

(資料)厚生労働省「社会保障を支える世代に関する意識等調査報告書」

出典：HONKAWA DATA TRIBUNE <http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa>

「最近の若い者は就職もしない、結婚しない、子供を産まない。最近の若者は何を考えているんだ」というような意見を持つ年配の方も多いことでしょう。

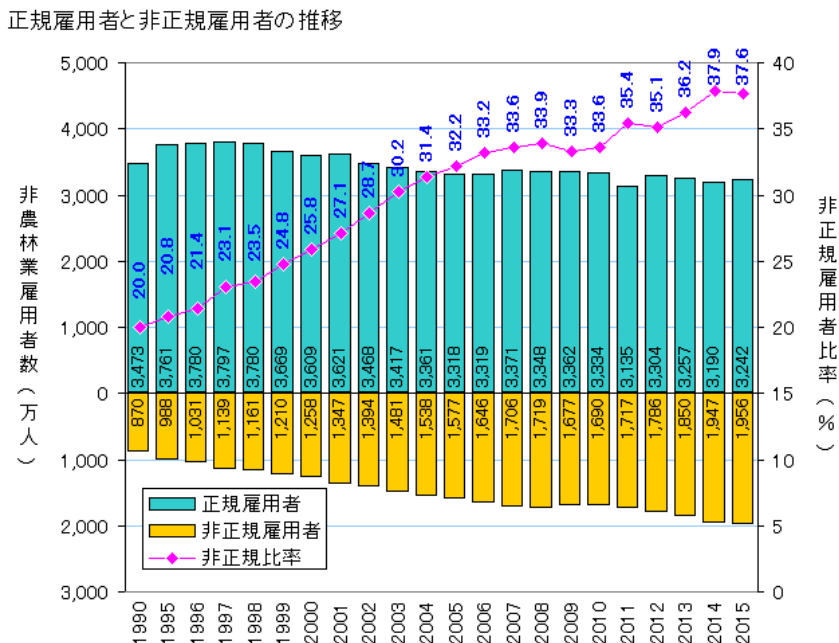
我が国の政治家も国民もアメリカ、ヨーロッパや近隣諸国と比べて、何の根拠もなく、何となく「良い国だ」と思い込んでいたり、「他の国と較べれば未だ良い方だ」とあきらめていたりと推察されます。現実を知らないのでしょうか。そこが問題だと思います。

いわゆる一種の『茹でカエル』現象、あるいは生活に追われて考える暇がないのかもしれませんが。何故、マスコミも日本の危機的な状況を国民に知らせようとししないのか、政党の支持率を調査するより、こうしたデータを整理して国民に提示する方が簡単だし、安上がりで有益だと考えないのでしょうか。何より、政治の論点を作るのがマスコミの使命の一つでしょう。芸能人やスポーツ選手等の結婚、不倫や離婚、麻薬騒動等より遥かに重要な問題だともおもいますが、政治に都合の良いことだけを発表してはいつか来た道になります。政治家も党利党略ではなく、国民の幸福を第一に考えてほしいものです。

ここ数日、同一労働・同一賃金が話題になっています。企業の経営者は、グローバル資本主義と日本らしい経営手法を対比させながら、『信頼』『信用』『平等』をベースにした格差の無い(少ない)日本らしい企業経営の長所に想いを致していただきたいものです。

手抜き工事も、偽装も、粉飾決算等も利益優先のグローバル資本主義の産物だったのかもしれませんが。

図表 3. 正規雇用者と非正規雇用者の推移

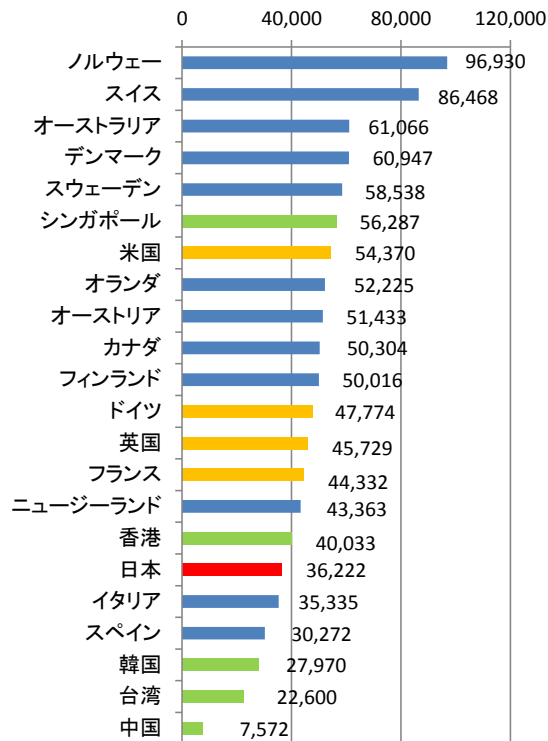


(注) 非農林業雇用者(役員を除く)が対象。1～3月平均(2001年以前は2月)。非正規雇用者にはパート・アルバイトの他、派遣社員、契約社員、嘱託などが含まれる。2011年は岩手・宮城・福島を除く。

(資料) 労働力調査

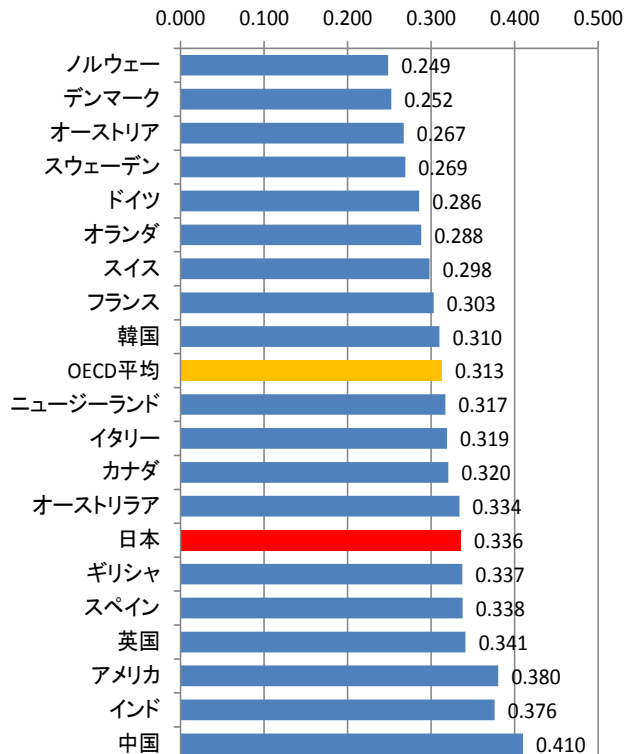
出典：HONKAWA DATA TRIBUNE <http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/>

図表 4. 主な国の国民一人当たりのGDP(2014年) ドル



出典：IMF World Economic Outlook Database 10/2015

図表 5. 主な国のジニ係数比較(2010年)



出典：OECD Society at a Glance 2014